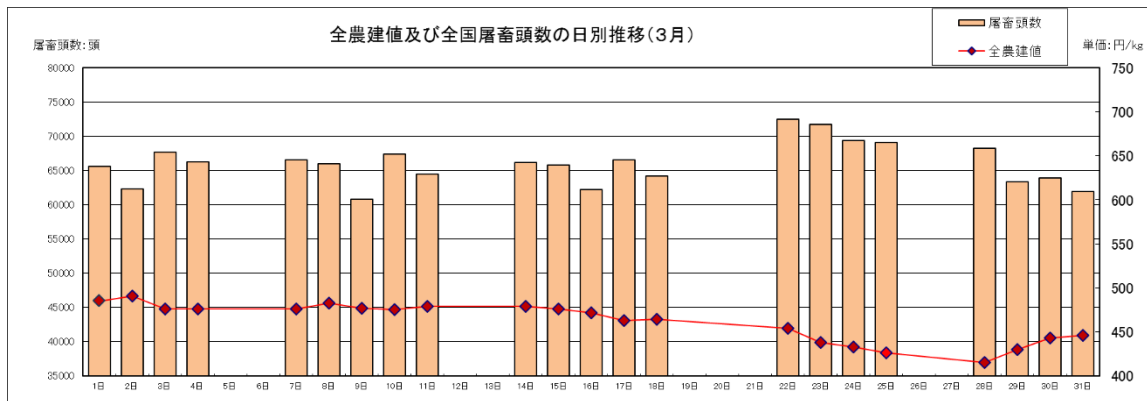


肉豚インフォメーション（3月）

【全農建値】

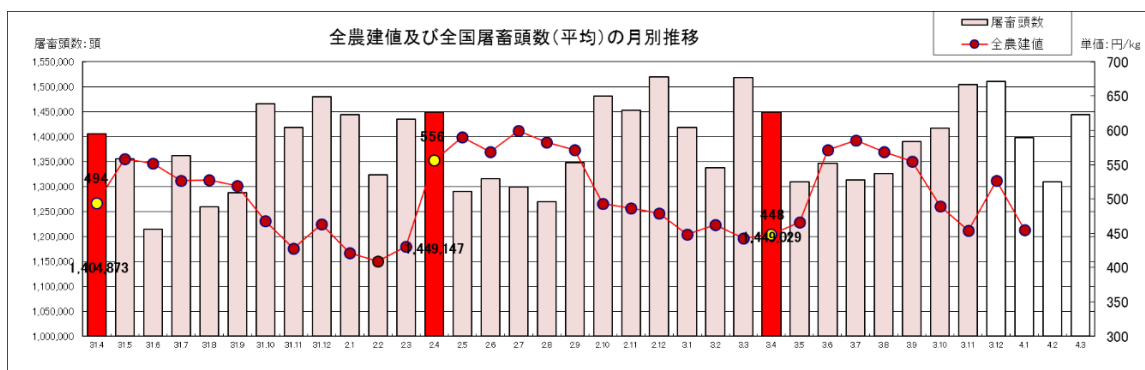
2022 年 3 月（税抜）	2021 年 3 月（税抜）
462 円/kg (18 円高)	444 円/kg

3 月は、まん延防止等重点措置の延長もあり、家庭内消費の需要は引き続きあったものの、下旬からは年度末もあり荷動きが鈍化し、450 円を割り込む展開となった。



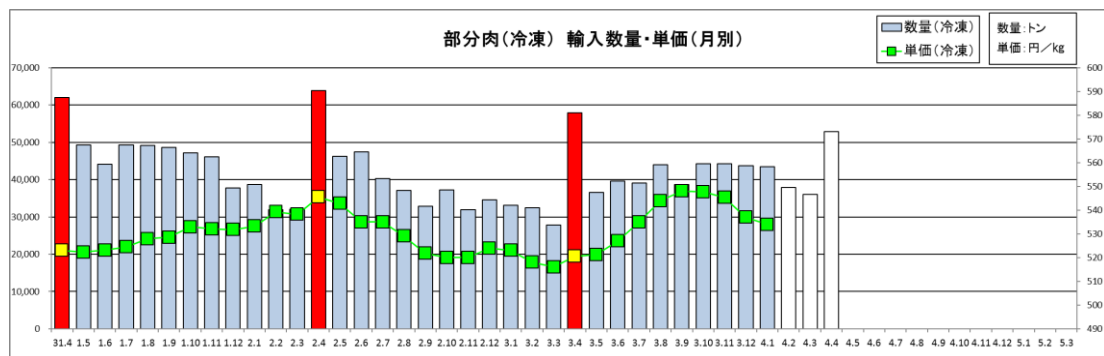
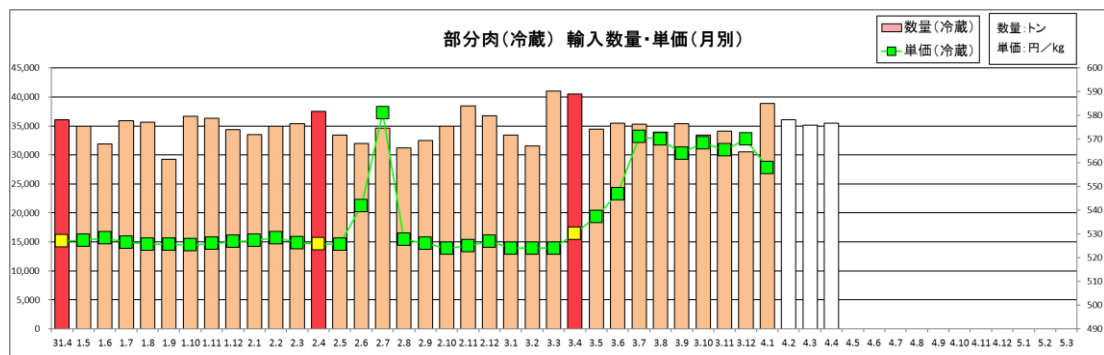
4 月以降の動向

4 月の出荷頭数は、前年同月をやや下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、3 月は、前年の輸入量が北米からの入船遅れ分が通関された影響から多かったことに加え、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰から、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。4 月は、前年の輸入量が巣ごもり需要の影響から多かったことに加え、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰から、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、3 カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。冷凍品輸入量は、3 月は、中国の買い付けが弱まったことにより相場が下がった欧州産の輸入量が増えていることから、前年同月を大幅に上回ると予測する。4 月は、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰から前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3 カ月平均では、前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

(A L I C 豚肉の需給予測について 3 月 29 日)



令和4年4～6月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和4年1～3月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり4,350円値上げとなった。

岸田首相は、飼料等の対応を焦点に緊急対策の策定を指示した。閣僚懇談会では、配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するとも述べている。金子農相は、緊急対策に加え、抜本的対策を6月までにまとめると述べており、今後の政府の動向に注視したい。

3月22日に全国的にまん延防止措置が解除されたため、外食需要の回復や今後の観光需要の喚起策に期待したい。

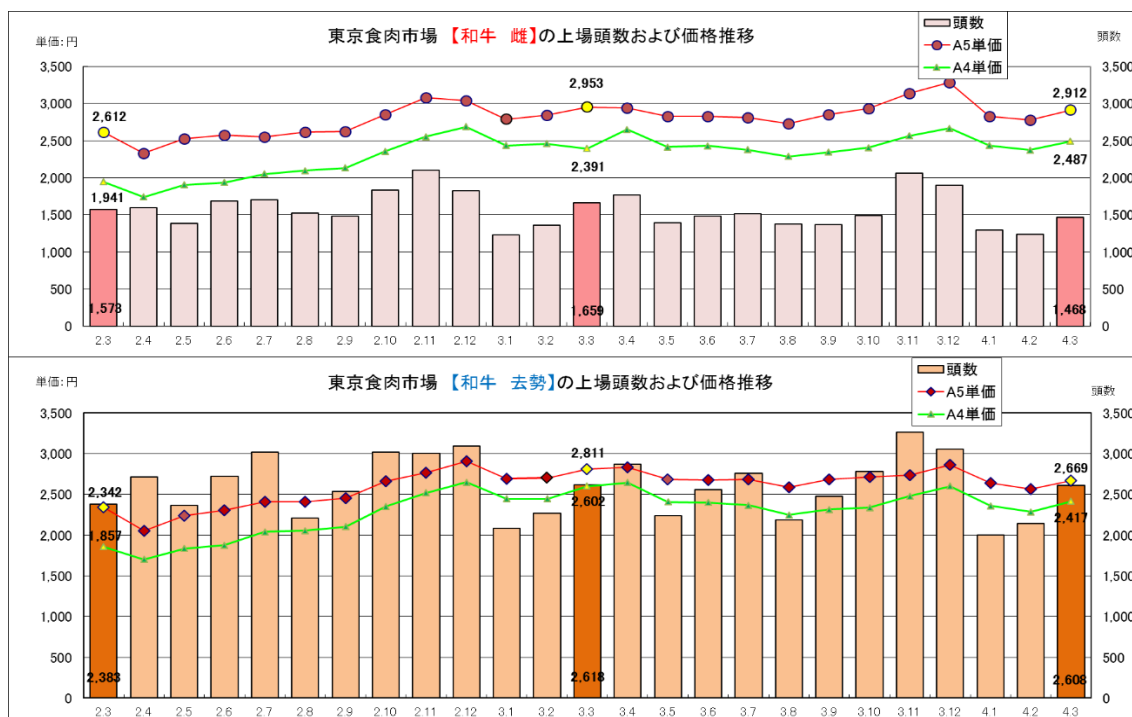
4月の相場は堅調に推移する見通し。

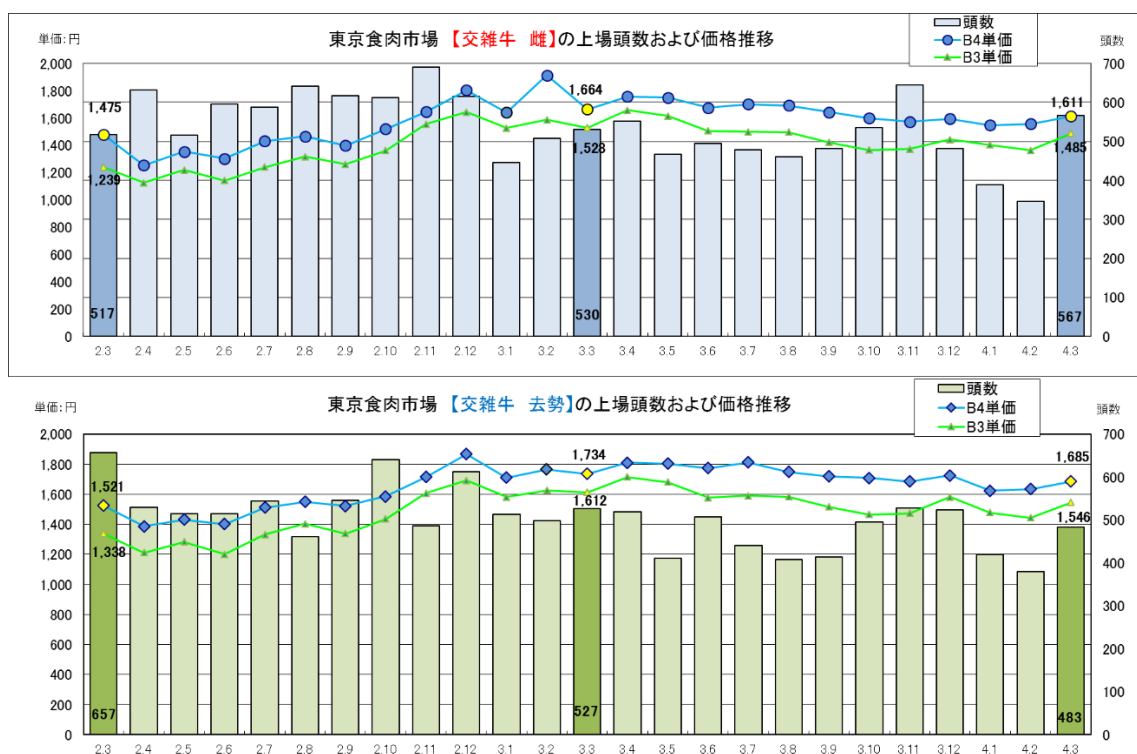
全農建値(税抜)予測レンジは460円～560円とする。

肉牛インフォメーション（3月）

● 3月の動向

牛枝肉の上場頭数は例年より少なく、特に和牛雌の上物が堅調な展開となった。3月中旬以降は2月平均と比較し、和牛3等級は150円以上、4等級や交雑牛2等級は100円以上あがった。





● 4月の動向予測

東京の上場頭数は例年並みの 7,500 頭程度を予定している。GW 向け手当てが本格化することが予想され強気の相場展開が見込まれる。中旬以降は、上げ気配は緩やかに収まるとの見方も。

4月相場は「強もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2,650 円（税込み） A4 等級 2,450 円（税込み）

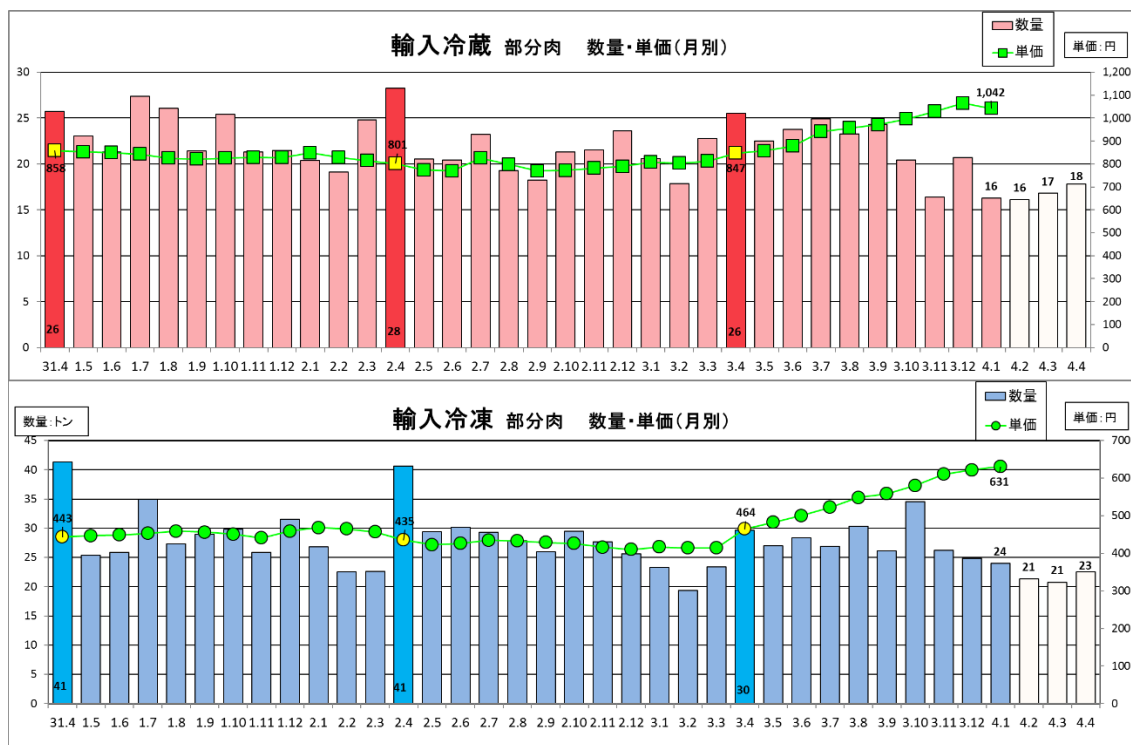
交雑去勢 B4 等級 1,650 円（税込み） B3 等級 1,500 円（税込み）

● 輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、豪州及び米国における現地価格の高止まりに加え、船積みの混乱や入船遅れにより、3月、4月ともに前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、豪州及び米国における現地価格の高止まりに加え、船積みの混乱や入船遅れにより、3月はかなり大きく、4月は大幅に、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

（A L I C牛肉の需給予測について3月29日）



●消費動向

3月は気温が上がるにつれスライスから焼き材にシフトした動きが見られた。4月は花見などの行楽需要や入学・歓送迎会での需要が期待される。徐々にBBQ提案も始まり、焼き材を中心に荷動きが出てくるだろう。例年、和牛や交雑牛のバラ、ロースは堅調だが、和牛カタロースは鈍い時期となる。

●全農茨城県本部家畜市場動向

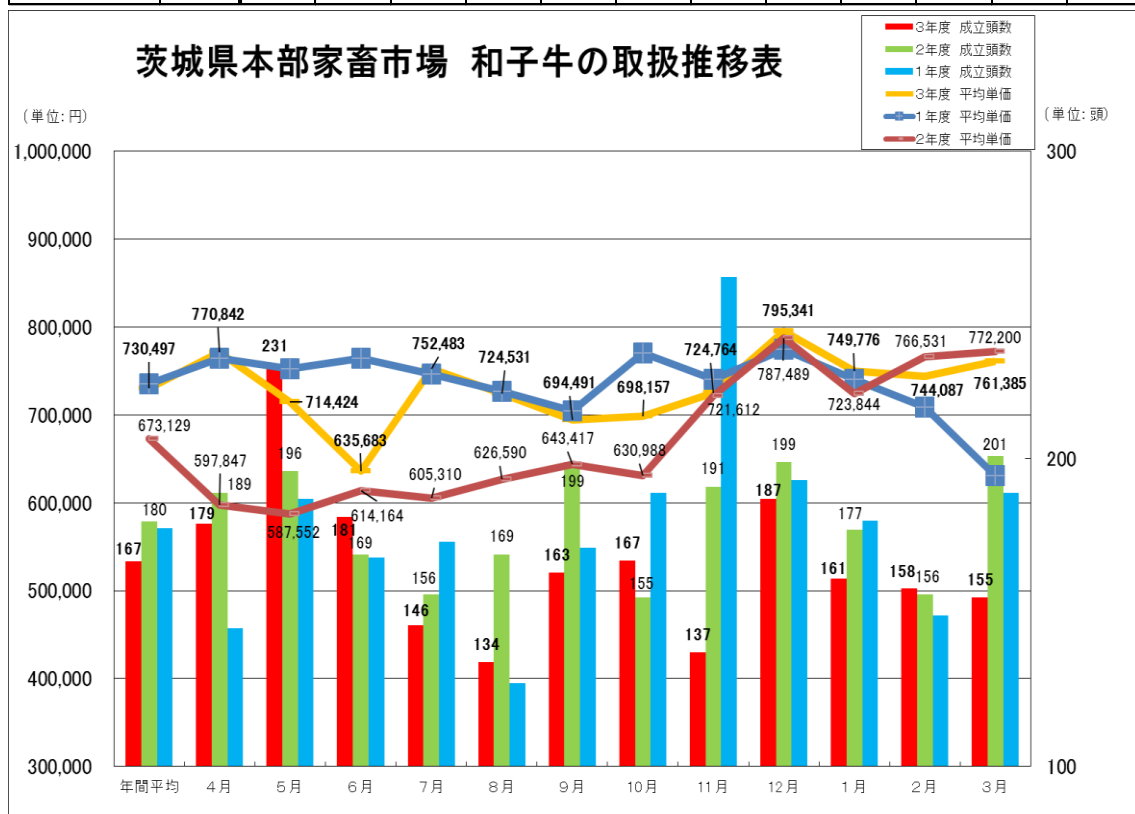
素牛平均価格（3月税込）は、黒毛和種の雌は670,519円で前月比▲10,381円、去勢は825,290円で前月比+43,546円となった。上場頭数（成立）は155頭で前月比▲3頭。

次回上場頭数は170頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度 平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
1年度 成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度 成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155



食肉インフォメーション（3月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査2月度結果報告によると、2月の全体売上は対前年比で104.8%と、緊急事態宣言が発令された前年同月より回復傾向に見えるが、実際にはオミクロン株の全国的な感染拡大によるまん延防止等重点措置が最大36都道府県に適用されたことでファーストフード以外の業態では需要の低迷が続き、全体売上の2019年比は84.5%と、コロナ禍以前との差が依然として埋まらない状況。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の2月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,098億円(前年同月比102.0%、既存店ベース100.1%)で前年とほぼ同等となった。気温が低い日が多く鍋物関連を中心に需要の回復が見られたが、同時に焼肉関連で前年好調の反動もあった。比較的価格が安定している国産豚や鶏肉は好調気味だったが、輸入牛など価格高騰が続く畜種については伸び悩んだ。

3月は例年であれば花見や卒業式等の会食需要が見込まれるが、コロナ禍の影響下では消費拡大の見込みは薄い。しかし3月中でのまん延防止等重点措置の全面解除に向けた動きもあり、外食需要の緩やかな回復への期待感が高まっている。

○牛肉

2月は輸入物の相場高止まり・不安定な供給が続いたことから、国産でホルスのスソ物を中心に代替需要があったが、相次ぐ物価上昇や外食・ホテルの需要が落ち込んだことでヒレ・ロースといった高級部位の引き合いが弱くなり、パーツ間の格差が広がった。和牛や交雑種はコスト面から代替需要への対応も難しく、まん延解除後の地方での需要回復に期待がかかる状況となっている。

○豚肉

2月はオミクロン株の影響で外食需要が低迷したが、内食需要は底堅く推移した。鍋物需要の好調が続き、国産は冷蔵にてスライス用のバラや切落とし用のモモの引き合いが強かったがロースは低調で、給食需要の低迷に合わせてスソ物・挽き材も鈍い荷動きとなり、冷凍はバラを中心に堅調な荷動きとなった。輸入物は、冷蔵ではバラ以外の部位で目立った荷動きがない不安定な状況が続いたほか、入船遅れで賞味期限が迫った在庫の投げ売りの動きも見え始めている。冷凍は外食需要の失速で荷動きが大きく鈍化している。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和4年2月期） 単位：千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和3年2月	12,219	12,199	7,800	27,986	11,559	10,353	6,473	88,589
令和4年2月	12,311	12,370	12,537	21,014	15,741	10,073	4,465	88,511
増減	92	171	4,737	-6,972	4,182	-280	-2,008	-78
対比	101%	101%	161%	75%	136%	97%	69%	100%